

【特集:おらほの農地集積】

「水稲の直播拡大での省力化に向けて」 ~独自の集落営農のスタイルの確立を目指す~

えんだにき
円田二期地区



地域の概要

事業名: 県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家戸数: 10戸1組織
関係市町村: 蔵王町	担い手経営面積:
関係土地改良区: 蔵王町土地改良区	【現在】 39.1ha
工期: 平成11~21年	【計画】 91.94ha
受益面積: 146.6ha	農地集積増加率(目標): 139.0%
総事業費: 2,651百万円	農地集積率(目標): 62.7%

蔵王町の水田地帯【円田】

円田二期地区は、蔵王町の北部に位置します。ちょうど村田インターから主要地方道岩沼・蔵王線を蔵王方面に向かい蔵王連峰が見える丘の上から、眼下に広がる水田地帯がそれに当たります。ここからの景観は良く、平成15年度に定めた「みやぎ蔵王36景」の一つになっています。蔵王というと梨、りんご、桃といった果樹が代表的な産物ですが、ここは果樹が少なく、いちご、つるむらさきのハウス栽培など野菜が多く栽培されている地域です。受益者数308戸で、所有農地50a未満の農家が三分の一を占め、経営規模の小さい農家が多い地域です。また、保有水田も区画が5~10aで用排兼用水路といった状態でした。そこで、標準区画1ha水田による農用地の高度利用、低コスト生産、高付加価値農業の実現を目指して平成11年から県営ほ場整備事業(担い手育成型)に取り組みました。それにともない用排水路、暗渠を完備したほ場を整備、10戸の担い手農家への農地集積を図ってきました。また、個別農家の水稲作付け拡大だけでなく、組織による転作作物の集団化を実現するため、担い手部会を中心に平成15年3月、北部営農生産組合(10戸)を設立、そばの集団栽培に取り組み、蔵王町水田農業の中心地としてモデル的な取り組みが進んでいます。



みやぎ蔵王36景(蔵王町円田)

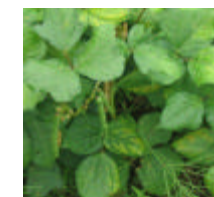
1 「北部営農生産組合」の設立と取り組み

北部営農生産組合は、平成15年にはそば約10.3haを作付け、冷害のため収穫量はきわめて少ない状態でしたが組織として初めて活動したことは、次年度への大きな自信となり、今年はおよそ14.6haを作付けしました。今年是好天にも恵まれ、前年を大幅に上回る量が10月には収穫できそうです。村上輝明組合長は、「生産組織としては、まだまだよちよち歩きの状態ですが、関係機関や地域の皆さんといっしょに着実に歩んでいきたい。」と顔を引き締めて、話していらっしやいました。



そば今年の開花状況

16年3月には、メンバーも10名から22名へと増え、ますます活動が活発化しています。今年、そば以外に加工特産品として珍しい「黒小豆」7aへの取り組みなど積極的な活動が進められています。秋には、収穫したそばを活用して地域に還元する「そば収穫祭」を予定しています。



黒小豆

2 「水土里ネットざおう農地集積推進委員会」による推進

農地集積の中心となっているのが、「水土里ネットざおう農地集積推進委員会」(15名)です。推進委員会では、平成16年度の農地集積計画を策定、関係農家を訪問し、担い手育成基盤整備事業の趣旨と農地集積の必要性、担い手育成の重要性を理解していただき、集積に対する出し手側への合意形成を図りました。その結果、平成15年度現在で整備済み区域63ha(繰り越し含む)のうち31.5haが作付け連担化される見込みです。

また、蔵王町土地改良区担い手部会(10名)では、水稲部門の省力化を進めるため、平成15年度に水稲直播栽培50aの展示ほ場を設置、冷害で移植栽培では著しい収量及び品質の低下が見られる中およそ330kg/10aの収量とオール一等米という品質を確保しました。これを受けて平成16年はこの展示ほ場を1haに拡大、さらなる調査研究に努めています。

事務局である蔵王町土地改良区では、「事業区域全体に事業目的が浸透するように集積委員や担い手農家、事務局が連携しながら、ここ独自の集落営農のスタイルを確立していきたい。」と話していました。



水稲直播栽培収穫作業

3 地産地消の実践活動「アグリポーション市」の展開

円田二期地区では、高付加価値農業の展開も進んでいます。県のアグリビジネス創造型生産基盤支援事業に平成13年度から取り組み、ほ場整備エリアの代表する人や担い手、婦人層と幅広い構成による「アグリビジネス策定委員会(20名)」を設置し、調査研究活動を繰り広げてきました。ここでは、地域の「アグリビジネス推進基本計画」を策定し、それに基づく実践活動を展開しました。その中心となったのは、地産地消を基本とした農産物の直売活動です。

アグリビジネス策定委員会の検討の中で、直売所方式で「Aみやぎ仙南蔵王平沢支所前(現蔵王町土地改良区前)で野菜を中心とした試験販売を2回実施し、これを検証した結果、平成15年1月に「アグリポーション市(会員22名代表村上八三郎氏)」が設立されたのです。アグリは「農業」の意味、ポーションとは韓国語で「普通の」又は「ごく自然な」を意味する言葉で「ごく自然な農産物を農家自らの手で販売する」といった意味が込められています。平成15年度は、5月25日を皮切りに、毎週土・日曜日に開催、およそ65回の開催で1,100千円の売り上げを記録しました。次年度は2,000千円の売り上げを目標に活動を展開しています。



アグリポーション市

<問い合わせ先>
水土里ネットざおう(蔵王町土地改良区)
〒989-0654 刈田郡蔵王町大字平沢字寺前77
TEL 0224-33-2761 / FAX 0224-33-3632